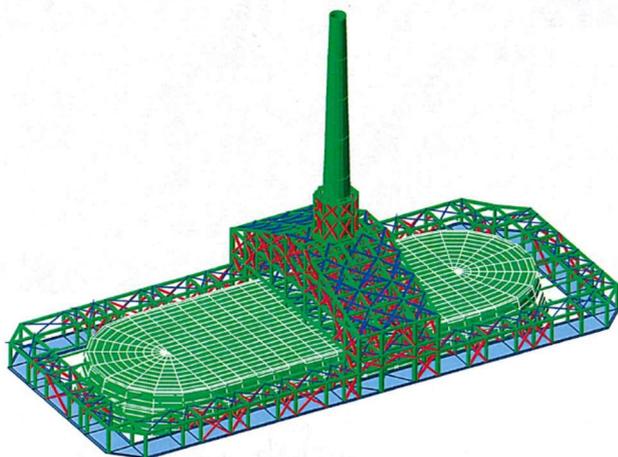


# ホフマン通信

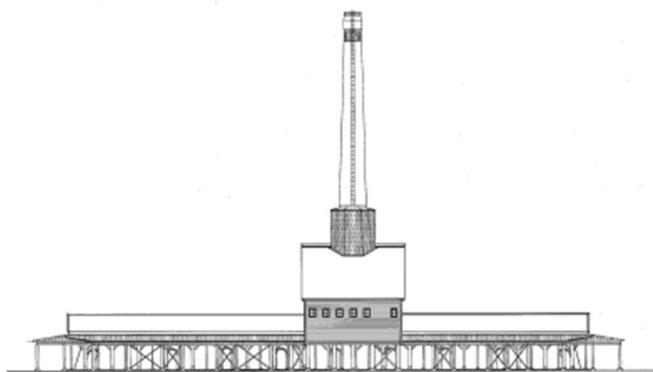
—「国重要文化財☆日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」保存修理情報— 第7号

## ◎耐震のための鉄骨補強

窯内部の価値を損なわず、耐震性を確保する補強方法を検討した結果、補強は、ホフマン輪窯と煙突の外側から鉄骨で行うこととしました。工事完了後は、補強鉄骨により平面規模は大きくなります。屋根の高さは、大部分は着工前と同じものになりますが、煙突周囲においては、3階建てだった元の木造覆屋の高さに近いものになり、外観は修理前と少し違ったものになります。



鉄骨補強の概要図



完成イメージ図（西側立面）

## ◎木造覆屋柱煉瓦基礎の調整

木造覆屋は、現在窯の修理工事のために解体されていますが、今後復旧することになります。それに先立ち、木造覆屋柱が載る煉瓦基礎の不陸調整

整をしました。沈下して低くなっている基礎は、モルタル積により高さを調整しました。基礎の据付け位置は、確認・調整を何度か繰り返して決定しています。



不陸調整のための木造覆屋柱煉瓦基礎切断



切断した木造覆屋柱煉瓦基礎の据付け



木造覆屋柱煉瓦基礎不陸調整の完了

### ◎投炭口の積み直し

窯の形状確認のため、窯上の土砂を取り除いた箇所の投炭口は、解体して積み直しをしました。解体する際、投炭口を構成する煉瓦は、方向に注意して一段ごとに仮置き箱に並べて保管し、既存の土砂目地を取り除いて、モルタルを用いて積み直しました。この後、土砂を埋め戻し、元の姿に復旧していきます。



投炭口の積み直し



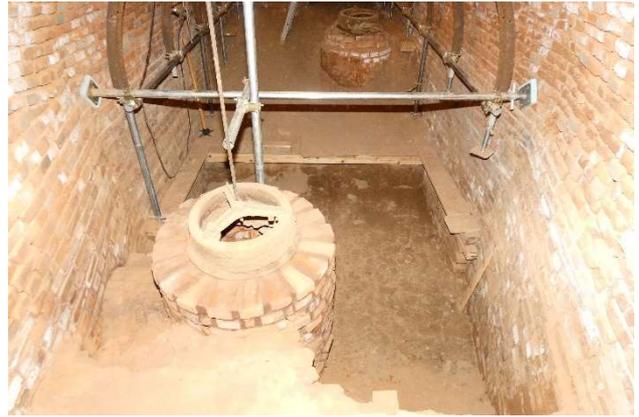
投炭口積み直しの完了

### ◎集煙道内の埋め戻しと補修

窯の中央部には、煙突の手前で煙が集まる集煙道と呼ばれる場所があり、調査のために掘削した部分の埋め戻しを行いました。また、集煙道内には煙道を開閉するダンパーがあり、煉瓦で造られたダンパー受けの崩落部分を補修しました。

### ◎断熱壁土の確認

窯の直近にある柱頂部から、壁土とみられる板状の土塊が確認されました。窯直近という位置関係から、断熱のためのものと考えられます。



集煙道内部



確認された断熱壁土

### ◎敷煉瓦の取り外し

窯外周の一部から敷煉瓦が出現しており（『ホフマン通信第6号』参照）、工事では鉄骨取付のため、これを一度取り外す必要があります。復旧に備えて透明シートに原位置を記録し、慎重に煉瓦を取り外しました。



敷煉瓦原位置の記録